

「顔の見える化」を大切に



羽島市 保険年金課長

田中 文詞

国民健康保険を所管する保険年金課長として2年目を迎えました。振り返れば平成18年度に保険年金課へ初めて配属され「老人保健」を担当していました。その数ヵ月後、後期高齢者医療制度の立ち上げのため「岐阜県後期高齢者医療広域連合」の設立準備委員会へ派遣され、広域連合が設立した1年後に羽島市へ戻りました。20年度から国民健康保険と後期高齢者医療を2年間担当した後異動となり、昨年度から7年ぶりに保険年金課に配属されています。

今回の国保大改革については、心強い担当者とともに30年度を迎えることができました。これまでの間、ご指導を賜ったり、ご相談をさせていただいた県や他市町村、国保連合会の皆様にあらためてお礼申し上げます。

今年度、本市では次の大きな課題として、3方式への賦課方式の見直しを検討しています。多くの市町村では30年度に資産割を廃止されていますが、本市では31年度以降に廃止する方針を掲げ、現在その見直し方法を協議している状況です。

この他にも、特定健診の受診率が伸び悩み、試行錯誤しながら受診率向上に取り組んでいます。今年度も新たな未受診者対策を展開できるように検討しています。また本市は、特定健診受診者のうちメタボ該当率が21.8%で42市町村ワースト1（平成28年度KDB）という衝撃的な結果が出ています。

と、話している私自身も、実はメタボ該当者になりかけている、いや、すでに

ている(?) 1人です。健康づくり政策の一端を担う課長が、メタボ該当者になりかけているとは大きな声では言えません。(皆様は気にしないでください。私の独り言です。から。) 昨年度の職場健診ではギリギリセーフでしたが、ますます膨らむ腹囲を見ると今年度は限りなく健診でひっかかりそうな感じが、いや、確信に近いものがあります。40歳代半ばで「メタボ」……。自分では怖くて腹囲を測定できません。現実からの逃避行です。

10月の職場健診までにダイエットしようと、夜間に食べないことや炭水化物の摂取量を減らすことなどを始めたところ。運動は、自宅が近いため片道10分程度の自転車通勤を10年ほど続けていますが、距離が短いため効果が出ているとは言えません。やせる気はじゅうぶんありますが、行動が伴いません。10月まで残り1ヵ月です。この機関誌が発行された頃には健診結果が出ていますので、次回、皆様とお会いするときは「安心してください。メタボじゃないですよ」(古い?)と言いたいですね。

最後に、国保ほど県や市町村、国保連合会のつながりが深く、皆様と接する機会が多い業務はないと思っています。「顔の見える化」は業務に大きなプラスになります。今後とも皆様や関係団体と連携し、様々な国保課題に取り組んでまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。